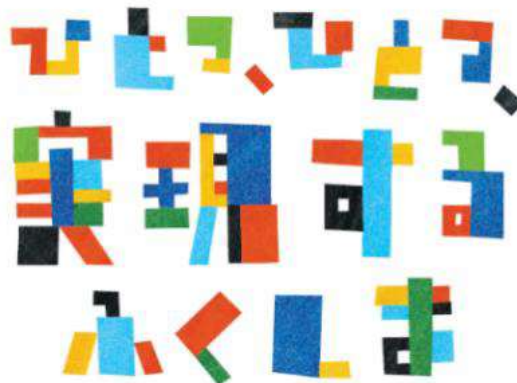


福島県文化振興基本計画 の進行管理について

育み、つなぎ、創造していく「ふくしまの文化」
～人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ～



推進施策1 県民の文化活動の促進

県民の文化活動が促進されるよう各種施策に取り組みます。

- (1) 文化意識の醸成
- (2) 文化の振興を担う人材の育成・確保
- (3) 文化活動への支援の充実

令和4年度の主な取組

○ 第76回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図っています。

- 開催時期：令和4年6月17日(金)～6月26日(日)
- 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 展示状況等：公募出品数618点【うち青少年169点】、招待等出品数155点、陳列作品数637点（内訳：日本画70、洋画278、彫刻35、工芸美術62、書192）
- 入場者数6,697人
- 美術奨励賞以上の入賞作品33点を県公式YouTubeにおいて公開

○ 第75回福島県文学賞（文化振興課）【4,046千円】

県内在住者及び県出身の学生・生徒から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより本県文学の振興と地域文化の進展を図っています。

- 募集期間：令和4年4月～7月末
- 部門：小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション、詩、短歌、俳句の5部門
- 今年度から新たにメールによる電子データでの応募作品提出を可能とした
- 応募状況：応募総数207点【うち青少年39点】
（内訳：小説・ドラマ60、エッセー・ノンフィクション31、詩34、短歌34、俳句48）
- 顕彰：令和4年11月3日（木・祝）に各部門の正賞、準賞等の入賞者を表彰
- 県文学賞講演会：県高等学校文化連盟と共同で開催。
講師：黛 まどか氏（俳人） 参加者：約130名
- 県文学集 入賞作品を掲載した県文学集を令和6年3月に発行予定

○ アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【18,400千円】

被災地の住民がアートの創作を通して地域での絆や誇りを深める取組を行うとともに、福島の未来を担う子どもたちがアート創作の機会を通して心豊かに成長する取組を実施するほか、制作した作品の展示を行っています。

● アートで広げるみんなの元気プロジェクト

- 芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援やこころの復興を図る取組
- 6プログラムのワークショップを延べ26日開催（予定含む）、参加者数112名（12

月末現在)

- ワークショップの参加アーティスト及びプログラム名
 - ◆ 小原風子氏 (絵本作家): マイ・ストーリー絵本～ぼくのこころのかさこそおぼけ～
 - ◆ 春野修二氏 (芸術家) 絹地を染めてみよう!～思い出の〇〇のイメージ～
 - ◆ 春野修二氏・小原風子氏: hal-fu のかさこそおぼけ
 - ◆ 中村ころもち氏 (イラストレーター): まちのポストカード・セット 2022 をつくろう
 - ◆ 黒沼令氏 (芸術家・版画家): 思い出の形を鋳造しよう
 - ◆ 寺島知春 (絵本ワークショップ研究者): 音からたどる絵本づくり

● アートで広げる子どもの未来プロジェクト

- 子どもたちに学校では体験できない創作の機会を提供する取組
- 9プログラムのワークショップを延べ 22 日開催 (予定含む)、参加者数 365 名 (12 月末現在)
- ワークショップの参加アーティスト及びプログラム名
 - ◆ FREDAY SCREEN (アートユニット): もりもりもじ!
 - ◆ よしもとみか氏 (画家): 私の「いま」を色と形で表現してみよう。
 - ◆ 村越としや氏 (写真家): 写真家の村越としやさんとみんなでつくる昭和村写真展
 - ◆ 千葉清藍氏 (書家): 書のワークショップ
 - ◆ シーナアキコ氏 (音楽家): みんなの音
 - ◆ 齋正機氏 (画家): 私の大切なふくしまの風景
 - ◆ 渡邊晃一氏 (福島大学教授・芸術家): アート&サイエンス「身体」で捉えた福島、日本、世界
 - ◆ 高橋延昌氏 (会津大学短期大学部教授): スマホやタブレットでつくる映像メディア表現
 - ◆ 手塚千尋氏 (明治学院大学准教授): カラフル・コミュニケーションーわたし/わたしたちの色、ふくしまの色ー

○ 県民カレッジ推進事業 (生涯学習課) 【予算なし】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供しています。

- 県民カレッジ連携講座 (受講生の対象地域を 1 市町村に限定しないで、他市町村の住民も参加できる講座) を県 HP や「県民カレッジ情報ボックス」(ヨークベニマル等) にて情報提供しました。
- 講座数 558 講座 参加者数 238,076 人

○ 第 61 回福島県芸術祭 (文化振興課) 【1,000 千円】

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等

の活動促進を目的として開催し、もって本県における芸術文化の振興を図っています。

- 主催行事：27件、参加行事：74件
- 開幕式典・開幕行事：令和4年9月4日（日）田村市文化センター 入場者数560名

○ 東京2020オリンピック・パラリンピックレガシー事業（スポーツ課）【82,014千円】

復興五輪として開催された東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承するため、ボランティア活動の継続のための支援や競技団体と連携した大規模大会の誘致等に取り組むことにより、スポーツによる交流人口の拡大や情報発信の充実等を図り、本県の復興の加速化につなげています。

- あづま球場における大規模大会の開催
R4年度…3件（JDリーグ、日米対抗ソフトボール、東都大学野球リーグ）
- 交流事業への参加人数 R4年度…1,913人（3月末見込み）
- 都市ボランティア活動等への参加人数 R4年度…408人（3月末見込み）”

○ 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、個人または文化団体等の活動を援助・奨励し、本県文化の普及、向上、保存を図っています。

[令和4年度]

- 文化団体等の事業58件への助成を内定。

○ 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【1,528千円】

本県の文化の振興・発展を図るため、多年にわたり本県文化の向上に著しい業績を表した個人を表彰しています。

[令和4年度受賞者]

- 芸術（美術） 嶋原明壽氏（福島市 福島県写真連盟会長）
- 体育（スポーツ） 斑目秀雄氏（白河市 福島県自転車競技連盟副会長）

○ 顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、文化活動に関し優れた成果を収め、本県文化の普及、向上、保存及び伝承に貢献した個人または文化団体等を表彰しています。

[令和4年度]

- 個人3名、1団体を表彰

令和5年度の主な取組予定

- 第77回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】
- 第76回福島県文学賞（文化振興課）【4,045千円】
- アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【18,402千円】

- 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【予算なし】
- 第62回福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】
- 東京2020オリンピック・パラリンピックレガシー事業（スポーツ課）【39,507千円】
- 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）
- 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【1,510千円】
- 顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）

推進施策2 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の拡充

県民が身近なところで容易に文化に接することができる機会を拡充します。

(1) 優れた文化芸術に親しむ機会の充実

令和4年度の主な取組

○ 県立美術館の企画展開催経費（社会教育課）【62,570千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展と連動した鑑賞講座、講演会等を開催しています。

【12月末現在】

- ①岩合光昭写真展 ギャラリートーク2回、サイン会2回
- ②東北へのまなざし ギャラリートーク2回、講演会1回、公開対談1回
- ③特集展示「みんな大好き！福島ねこづくし展」 スライドトーク1回
- ④生誕100年 朝倉撰展 ギャラリートーク2回、トークイベント1回
- ⑤没後200年 亜欧堂田善展 ギャラリートーク2回

○ 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1,495千円】

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催しています。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っています。

【12月末現在】

- ①芸術鑑賞講座 4回開催、参加者数166名
- ②創作プログラム 8回開催、参加者数116名
- ③図書館との連携講座「アートなおはなしかい」 1回開催、参加者数13名
- ④学校連携共同ワークショップ 8校、参加者数284名

○ 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【20,817千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展と連動した講座、講演会等を開催しています。

【12月末現在】

- 4つの企画展と関連した解説会や講座・講演等のイベント（イベント数23、参加者853

名)を実施

○ **県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【15, 445千円】**

学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演等を実施しています。

【12月末現在】

- 各分野の講座や講師派遣、ゲストティーチャーを実施した。
- 分野講座 26回 382人、講師派遣受講 1,239人、ゲストティーチャー受講 2,577人

○ **第16回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19, 278千円】**

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

- 開催日：令和5年3月16日（土）～3月19日（日）
- 16日～18日に部門別コンテスト（小学校・ジュニア、中学校、高等学校、一般の4部門）を行い、19日に本選を行う。
- 出場団対数（予定）：120団体
- 4年振りに有観客とするとともに、オンライン配信を実施予定。

○ **障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【16, 193千円】**

障がい者芸術文化活動の推進、ふくしま共生サポーターの養成、民間活動の支援、普及啓発活動の推進により県民の理解を深め障がいのある方が社会参加しやすい機運の醸成を図るとともに、芸術文化活動の推進を通して障がいのある方の活躍を促進し障がいのある方がいきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。

- 障がい者芸術作品展「きになるまひょうげん2022」
 - 開催場所：はじまりの美術館（猪苗代町）
 - 開催期間：令和4年11月19日（土）～令和5年1月15日（日）
 - 応募作品数506点 来場者数1,413名
- とりどりのアート事業「感じる鑑賞会」
 - 開催場所：コラッセふくしま
 - 開催期間：令和5年1月7日（土）～令和5年1月15日（日）
 - 展示作品数約30点、来場者数693名
- 障がい者芸術文化活動支援センター運営支援
 - 障がい者の芸術文化活動に関する相談支援や人材育成、情報収集・発信等を行う障がい者芸術文化活動支援センター（はじまりの美術館）を設置する法人へ補助を行った。

○ **【再掲】アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【18, 400千円】**

被災地の住民がアートの創作を通して地域での絆や誇りを深める取組を行うとともに、福島未来を担う子どもたちがアート創作の機会を通して心豊かに成長する取組を実施するほか、制作した作品の展示を行っています。

● アートで広げる子どもの未来プロジェクト

- 9プログラムのうち、下記の2プログラムを県立会津支援学校で実施
- ワークショップの参加アーティスト及びプログラム名
 - ◆ 千葉清藍氏（書家）：書のワークショップ
 - ◆ シーナアキコ氏（音楽家）：みんなの音

○ うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【1, 864千円】

高齢者の健康と生きがいを推進し、社会活動の振興を図るため、「福島県シルバー美術展」を開催し、高齢者が制作している作品の展示を行っています。

- 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 開催期間：令和4年9月1日（木）～9月5日（月）
- 応募作品数300点 入場者数1,066人

令和5年度の主な取組予定

- 県立美術館の企画展開催経費（社会教育課）【66,192千円】
- 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1,495千円】
- 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【21,820千円】
- 県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【15,504千円】
- 第17回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,278千円】
- 障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【15,521千円】
- [再掲] アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【18,402千円】
- うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【1,864千円】

推進施策3 青少年の文化活動の促進

青少年が身近な地域や学校において、その地域で育まれてきた文化を始め多様な文化に接する機会の充実を図るとともに、主体的に文化活動ができるよう環境の整備を図ることにより、青少年の文化活動を促進します。

- (1) 鑑賞機会等の充実
- (2) 学校教育等における文化活動の促進

令和4年度の主な取組

○ ふくしま「若者×デジタル芸術×デジタル」推進事業（文化振興課）【13,959千円】

県内の若い世代を対象に、デジタルツールを活用したメディア芸術をテーマに公募展覧会を開催するほか、特別講義やワークショップを通じてメディア芸術への関心を高め、青

少年の文化活動の支援及び人材育成を図っています。

①公募展覧会

- 応募作品数 静止画部門：219点、動画部門：29点
- 会津展：令和4年11月18日(金)～20日(日)
スマートシティA i C T交流棟 入場者数335名
- 郡山展：令和5年1月6日(金)～8日(日)
市民ふれあいプラザ（ビッグアイ6階） 入場者数322名
- WEB展示：全ての応募作品について、特設ホームページで公開
- 特別講義：講師 日比野克彦東京藝術大学学長 テーマ「アートと社会」
令和5年1月8日（日）ビッグアイで開催 参加者65名

②ワークショップ

- 4プログラム、延べ8回開催 参加者数99名

○ **【再掲】第76回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】**

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図っています。

- 青少年の出品数 169点

○ **【再掲】第75回福島県文学賞（文化振興課）【4,046千円】**

県内在住者及び県出身の学生・生徒から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより本県文学の振興と地域文化の進展を図っています。

- 青少年の応募数 39点

○ **コミュニケーション能力育成事業（高校教育課）【4,515千円】**

演劇や哲学対話による表現活動を通して他者を理解する力や自己肯定感、自己表現力を育むとともに、主体的・対話的で深い学びを促進することで学力向上を図る。

- 演劇によるコミュニケーション能力育成事業においては、小中学校3校、高校3校をモデル校に指定し、外部講師によるワークショップを各校3回ずつ、計画に基づき実施中。
- 哲学対話によるコミュニケーション能力育成事業においては、高校2校をモデル校に指定。大学教授等を講師としたワークショップを各校2回ずつ、計画に基づき実施中。

○ **統合校魅力化発信強化事業（県立高校改革室）【7,317千円】**

県立高等学校前期実施計画により開校する統合校の魅力を発信するとともに、地域の魅力化、活性化に貢献する学校として、地域探究活動を充実させ、地域の文化や発見した魅力を国内外に発信する取組や地域課題の解決策等を地域の方へ発表し、生徒と地域が相互交流する機会を設けています。

【12月末時点】

- 各統合校が、所在する地域の特色に合わせた取組を進めており、国際交流、地元の祭りへの参加や伝統工芸品の製作体験などの地域の魅力を知る活動が行われました。
- また、自治体と連携した地域探究活動において、地域や統合校の魅力や地域課題の解決に向けた提言などをまとめ、地域の方々へ発表しました。

○ 福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1,000千円】

福島県高等学校総合文化祭開催のため、福島県高等学校文化連盟とともに、福島県及び福島県教育委員会が福島県高等学校総合文化祭を実施する場合に補助金を交付しています。

- 第41回福島県高等学校総合文化祭を実施

○ 文化芸術による子供育成総合事業（文化庁）[窓口：文化振興課]

● 巡回公演事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行うことにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図っています。

- 令和4年度採択 46校（オーケストラ等6校、児童劇8校、演劇3校、ミュージカル6校、現代舞踊2校、歌舞伎・能楽5校、邦楽3校、邦舞1校、演芸8校、メディアアート1校、バレエ3校）

● 芸術家の派遣事業

個人又は少人数の芸術家を小学校・中学校等へ派遣し、講話・実技披露、実技指導を行うことにより、子供たちの創造力、思考力などの能力の育成を図っています。

- 令和4年度採択 37校（演劇5校、伝統芸能3校、音楽23校、舞踊5校、メディア芸術1校）

○ ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト（社会教育課）【3,114千円】

福島県全体の読書活動について検討する場や高校生の情報発信能力を県内外に発信する場、幼児期の読書の大切さを広報する場を設定することにより、読書環境の改善を図っています。また、各地域で活躍できる読書活動支援者を育成するとともに、資質向上を図り、自立的・自発的に活動ができるよう支援しています。

①ビブリアバトル福島県大会

- 令和4年12月3日（土） とうほう・みんなの文化センター
- 発表者15名、観戦者118名

②発達段階に応じた読書活動研修会

- 令和4年9月10日（土） 国立磐梯青少年交流の家
- 参加者55名

令和5年度の主な取組予定

- ふくしま「若者×メディア芸術×デジタル」推進事業（文化振興課）【14,880千円】
- [再掲] 第76回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】
- [再掲] 第75回福島県文学賞（文化振興課）【4,051千円】
- コミュニケーション能力育成事業（高校教育課）【4,515千円】
- 統合校地域人材育成推進事業（県立高校改革室）【9,383千円】
- 福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1,000千円】
- 中学校文化活動体制整備促進事業（義務教育課）【7,055千円】
- 文化芸術による子供育成総合事業（文化庁）
- ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト（社会教育課）【3,114千円】

推進施策4 伝統文化の継承及び発展

東日本大震災、原子力災害の影響が続いている本県では、伝統文化が地域の絆を支えてきた経験をいかしながら、文化財を含めた伝統文化を次世代に継承し、地域におけるまちづくりや観光などの資源として積極的に活用し発展させます。

- (1) 伝統文化の継承と発展
- (2) 文化財の保存と活用

令和4年度の主な取組

- 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,324千円】
 - 民俗芸能公演事業
民俗芸能の継承を図るため、「ふるさとの祭り」を開催し、震災等の影響により、公演の機会のない民俗芸能団体を中心に芸能披露の場を提供しております。
 - イベント形式で開催するとともにコロナ禍で来場できない方にも芸能を鑑賞いただけるように動画を撮影し、県公式YouTubeで公開します（2月下旬公開予定）
 - ①双葉町開催（ふたばワールド2022のステージにて披露）
 - ・日程：令和4年9月23日（金・祝）
 - ・場所：双葉町産業交流センター敷地内（ふたばワールド2022）
 - ・出演：2団体 ・来場者数：850名
 - ②浪江町開催
 - ・日程：令和4年10月8日（土）・9日（日）
 - ・場所：道の駅なみえ
 - ・出演：14団体 ・来場者数：1,280名
 - 民俗芸能復興サポート事業
専門家との連携により、芸能団体の活動再開から継続、担い手の育成まで、各団体の実情に応じた総合的、一体的な支援を行っています。
 - 研修会等 6回（10月～2月）

芸能団体等を対象として、活動再開や継続に向けた課題や地域における取組事例の情報提供や助言指導を行っています。

- 市町村個別訪問による行政意見交換 20市町村（予定含む）

地元の民俗芸能団体が抱えている活動継続に向けた課題やその対策、具体的な活動事例などについて、市町村担当者と意見交換し、情報共有を行っています。

- 個別訪問 55団体（予定含む）

芸能団体を専門家が訪問し、個別具体的な助言指導を行っています。

○ 大学生と集落の協働による地域活性化事業（地域振興課）【12,998千円】

県内外の大学生等のグループと集落との交流を通して、若者や外部からの新たな視点を取り入れ、集落活性化の取組の実現・継続のサポートを行っています。地域活動に関心の高い大学生等との橋渡しを行うことで、地域と多様な形で関わりを持つ関係人口の創出・拡大を併せて図ります。

- 当該事業を活用し、県外の大学が浪江町の民俗芸能保存会と協同して、民俗芸能の継承等に取り組んでいます。

○ 地域の寺子屋推進事業（こども・青少年政策課）【3,257千円】

社会全体で子育てを支援するため、地域で知恵と経験のある方と、次世代を担う子どもとその親が、昔ながらの遊びや伝統など地域の資源を活用して互いに交流する「地域の寺子屋」を県内各地に拡大しています。

- 地域の寺子屋セミナー 5回開催 参加者126名
- 寺子屋実施 6回開催 参加者202名（12月末時点）

○ 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【60,912千円】

伝統産業の後継者不足や消費者のライフスタイル・価値観の変化による需要減少等の課題解決に向け、後継者確保、人材育成を目的としたアカデミーやインターンシップを実施するとともに、デジタルを活用した伝統工芸の情報発信や販売促進、飲食店での活用促進を行っています。

● ふくしまクリエイティブクラフトアカデミーの運営

- 県内の伝統工芸に携わる職人・事業者や今後それらの担い手を目指す者を対象に、マーケティング・ブランディング等に係る知識を習得し、販売力強化に向けたスキルアップを図るとともに、県内の各産地や若手職人等の連携を実現するために「ふくしまクリエイティブクラフトアカデミー」を開催。コシノジュンコ氏を校長に迎え、8月22日に開講し、19名が修了。

● インターンシップの実施

- 伝統工芸や地場産業への関心が高い県内外の大学生等を対象に、技術や販売等の職

場体験を通じた後継者育成を図ることを目的にインターンシップを実施する。受入事業者 9 社で参加研修生 24 名がインターンシップに参加した。

○ **伝統文化親子教室事業（文化庁）【窓口：文化振興課】**

子どもたちに対して、民俗芸能、邦楽、日本舞踊、茶道、華道などの伝統文化に関する活動を体験・習得できる機会を提供しています。

- 令和4年度採択 20教室

○ **指定文化財保存活用事業（文化財課）【30, 218千円】**

文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修復等保存事業と公開等活用事業を実施する場合に、補助金を交付しています。

- 当初予算で計上していた文化財に加えて、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震により被災した文化財についても補助金を交付するなどして計画的に実施している。

○ **被災ミュージアム再興事業（文化財課）【3, 942千円】**

旧警戒区域の各歴史民俗資料館等に保管されていた文化財等資料について、県文化財センター白河館に設置した仮保管施設において、目録の整理や修理・安定化の作業を実施し、安定した環境下での維持・管理を行っています。

○ **文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】**

文化財保存活用地域計画の策定を進める市町村に全国的な先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順、文化財の防災・減災のための調査の実施方法、文化財浸水ハザードマップの作成方法などについて、指導助言・支援を行っています。

○ **福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【304, 204千円】**

文化財等の保管・活用により、県民の文化の振興に資するため設置した福島県文化財センター白河館の維持管理を行うとともに、国民の財産である文化財の保存・公開・活用を通して文化財保護思想の普及啓発を図るための事業を展開しています。（施設の維持・管理運営事業）

○ **文化財等を活用した誘客促進事業（観光交流課）【29, 600千円】**

全線開通で注目の集まる只見線沿線の文化財など、既存の地域資源を観光素材として活用し、普段体験できないような特別プログラム等と組み合わせて観光誘客を図るコミュニティツーリズムを推進し、得られた収益を地域に還元する仕組みを構築します。

- 支援団体を公募により選定、6団体を支援。ヒアリング調査を実施し地域戦略を策定。戦略に基づき、具体的な文化財等を活用した旅行商品を、団体・専門家・地域の関係者・県で造成中。事業関連の講習会には約40名が参加。

令和5 年度の主な取組予定

- 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,329 千円】
- 大学生と集落の協働による地域活性化事業（地域振興課）【12,975 千円】
- 地域の寺子屋推進事業（こども・青少年政策課）【3,257 千円】
- 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【28,394 千円】
- 伝統文化親子教室事業（文化庁）
- 指定文化財保存活用事業（文化財課）【37,265 千円】
- 被災ミュージアム再興事業（文化財課）【3,804 千円】
- 文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】
- 福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【277,264 千円】
- 文化財等を活用した誘客促進事業（観光交流課）【30,000 千円】

推進施策5 生活文化の充実

ふくしまの生活環境の中から育まれた食文化などの生活文化の継承と振興を図ります。

- (1) 食文化の継承と振興
- (2) 生活文化等の振興

令和4 年度の主な取組

○ 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3,483 千円】

食習慣、肥満等の健康課題に対応するため、栄養教諭を始めとした食育指導者の資質向上を図り、園児・児童生徒等の食生活の環境整備を行うとともに、食育の観点から地場産物活用促進のため、地場産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを県民に発信しています。

- 食育指導者研修会（対象：栄養教諭、教育事務所・教育委員会の食育担当者等 県内1会場）
- ふくしまっ子栄養教室（幼小中学校：約280校（園）、高校：約90校）
- ふくしまっ子ごはんコンテスト（対象：小中学校 応募総数：18,087点 入賞者：28名 入賞校：35校 表彰式：1月）

○ ふくしま'食の基本'推進事業（農産物流通課）【13,268 千円】

東日本大震災と原発事故の影響により、県内の子どもが地域の食に関する体験や知識を得る機会が減少しているため、食に関する体験活動を推進するとともに、地域における食育推進活動を支援しています。

- 食育実践サポーターとして、233名登録、子どもの食育に係る授業や研修会等へのべ52人派遣した。(12月末時点)
- ふるさとの農林漁業体験支援事業として、12団体14事業の食育に関する体験を支援した。(12月末時点)

○ 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1, 282千円】

地域の周辺環境に調和し、景観上優れた建築物等を表彰し、文化的な魅力のあるまちづくりに対する意識の高揚を図っています。

- 今年度の応募作品53点に対し、8月に一次審査、10月に現地審査及び11月に最終審査を実施し、11点の受賞作品を決定した。また、受賞者に対し令和5年1月27日に表彰式を開催した。

○ [再掲] 第61回福島県芸術祭（文化振興課）【1, 000千円】

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、もって本県における芸術文化の振興を図っています。

- 主催行事：27件、参加行事：74件
- 開幕式典・開幕行事：令和4年9月4日（日）田村市文化センター 入場者数560名

令和5年度の主な取組予定

- 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3,534千円】
- ふくしま'食の基本'推進事業（農産物流通課）【13,267千円】
- 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1,382千円】
- [再掲] 第61回福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】

推進施策6 文化活動を行う拠点の機能の充実

文化活動の拠点である各文化施設等について、県民の多様なニーズに対応するため、整備や機能の充実を図るとともに、県民の利用促進のために文化施設相互の連携促進など運営の充実を図ります。また、地域と連携し、地域文化についての理解を深める文化観光の推進における中核としての機能も充実させていきます。

（1）文化施設の機能の充実・連携の促進

令和4年度の主な取組

○ 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【351, 821千円】

県民の芸術及び文化の振興を図るために設置した福島県文化センターの維持管理、芸術の振興に資する事業を支援しています。（施設の維持・管理運営事業、利用料金免除補助事業、施設整備事業）

○ ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【620, 537千円】

海に関する文化・科学の学習機会を提供するための拠点施設として設置したふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の維持管理、展示資料等の更新に資する事業を支援しています。（施設の維持・管理運営事業、利用料金免除補助事業、施設修繕事業）

○ **美術館施設整備事業（社会教育課）【17,814千円】**

県立美術館の修繕等を計画的に行っています。

○ **博物館施設整備事業（社会教育課）【23,592千円】**

県立博物館の修繕等を計画的に行っています。

○ **文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【75,002千円】**

「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定し、県立博物館を文化観光の拠点施設として、若松城跡周辺の「会津のSAMURAI文化エリア」や「若松城下の商工文化エリア」、奥会津の「雪国のくらしとものづくり文化エリア」を訪れる観光客等の周遊を促進する取組を行っています。

- まちなか連携事業、体験型プログラム、総合展示室、案内掲示等の多言語化、雪国ものづくりマルシェ（春、秋）、レストラン改修、体験学習室整備、Wi-Fi整備、部門展示室（民俗）整備を実施。

令和5年度の主な取組予定

- 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【387,815千円】
- ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【621,107千円】
- 美術館施設整備事業（施設財産室）【23,936千円】
- 博物館施設整備事業（施設財産室）【26,735千円】
- 文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【105,003千円】

推進施策7 文化の交流の推進

地域やジャンルを超えた多様な文化交流を推進するとともに、東日本大震災・原子力災害の記録や教訓等を次世代に引き継ぎながら、復興の状況とともに全国に向けて発信し、交流の拡大につなげます。

- （1）文化の発信と交流の充実
- （2）東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信

令和4年度の主な取組

○ **教育旅行復興事業（観光交流課）【279,020千円】**

県内宿泊を伴う教育旅行を実施する県外学校に対するバス経費の一部助成を行っています。また、ホープツーリズムを核とした探究学習プログラムの磨き上げ・周知のための教育関係者向けモニターツアー、合宿関係施設の広域連携促進による受入体制の強化等を行います。

- 12月末時点でのバス経費助成事業交付決定件数 1,311件
- モニターツアー 10件実施

- 合宿関係施設の広域連携支援 県内 8 地域で支援実施中。

○ **自然公園の魅力を活かした風評払拭強化事業（自然保護課）【12, 876千円】**

県内の自然公園が有する「本物の」自然・文化等の魅力を題材とした動画を国内外に対し強力に発信することにより、本県への風評払拭を図ります。

- 県内国立・国定公園の PR 動画の作成（「ふくしまグリーン復興構想」のホームページで公開）、SNS による情報発信。

○ **【再掲】第16回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19, 278千円】**

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

○ **東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【401, 600千円】**

複合災害の記録と教訓を後世に伝えるとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿やこれまで国内外からいただいた御支援に対する感謝の思いを発信するため、東日本大震災・原子力災害伝承館を運営する。（施設の維持・管理運営事業、施設修繕事業）

- 原子力災害に関する物的資料等の収集 10,540 点収集（R4.12 月末時点）
- 避難指示解除を受け、葛尾村・大熊町・双葉町のパネル展を実施
- 一般研修プログラム 235 団体 10,368 名受講（R4.12 月末時点）、伝承館の上級研究員による専門講座 11 団体 181 名受講

○ **震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（生涯学習課）【6, 346千円】**

福島県の子どもたちが、県内で復興・再生に邁進している団体等に対して取材を行い、震災の経験や教訓、復興に向けての取組を学び、ふるさとの良さや未来について考え、自分の言葉で新聞にまとめ、発信することにより、ふるさとへの愛着心を育むとともに、ふくしまの復興を広く国内外に発信します。

- ジャーナリストスクールの開催
- 開催日：令和 4 年 7 月 28 日（木）開校式・取材、30 日（土）～31 日（日）新聞作成
令和 4 年 8 月 11 日（木・祝）発表会・閉校式
- 場所：東日本大震災・原子力災害伝承館、相双地区他、郡山自然の家、
郡山市立中央公民館
- 受講生 県内の小学 5 年生～高校生 31 名
- 発表会参観者 89 名、特別講師 池上彰氏

○ **東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【36, 894千円】**

県内外の小中高の児童・生徒が東日本大震災・原子力災害伝承館を活用して行う学習活動を支援するためにバス代への補助を行っています。

- バス補助金額：22,459千円、バス台数：283台、人数：8,975人

○ 次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【4,263千円】

次世代への震災の記憶と教訓の伝承を図るため、語り部団体等のネットワーク化や人材育成、県外等への語り部派遣を行うことで、語り部等の持続的な活動の仕組みづくりに取り組んでいます。

- 震災等語り部意見交換会
日時：令和4年9月11日（日） 場所：東日本大震災・原子力災害伝承館
- 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
日時：令和4年11月6日（日） 場所：東日本大震災・原子力災害伝承館
- 県外語り部派遣（徳島県防災講座）
日時：令和4年11月6日（日） 場所：徳島県立防災センター
- 次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム第1回会議
日時：令和4年12月9日（金） 場所：県庁（本庁舎）

○ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【14,162千円】

震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることでできる高校生を育成に取り組んでいます。この過程で思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外の高校生等との交流を通して震災に関わる風化防止、風評払拭につなげています。

- 実践校を25校指定。各校とも計画に基づき展開中。
- 伝承館研修校を30校指定。各校とも計画に基づき展開中。
- 県外中学校、高校のべ13校との交流を、実践校のべ8校がそれぞれ実施。
- 伝承館での教員研修を小中学校は11月30日及び12月12日に、高校は12月7日に実施。

○ ホープツーリズム推進事業（観光交流課）【303,905千円】

福島ならではの学びが実現できるホープツーリズム推進のため、人材育成及び教育旅行等プログラムの磨き上げや窓口の運営を行っています。あわせて、個人客等の幅広い層を対象としたホープツーリズムの構築・提示により間口を広げ、浜通り、被災地域の交流人口の拡大を図っています。

- 新規人材研修実施済。
- フィールドパートナーのスキルアップ研修実施中。
- 観光交流イベント実施 2回
- 企業向けのワーケーショントライアル実施中 3社14名
- インバウンド対応のための多言語ガイド育成研修実施 4回

令和5年度の主な取組予定

- 教育旅行復興事業（観光交流課）【301,677千円】
- [再掲] 第17回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,278千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【410,520千円】
- 震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（生涯学習課）【6,569千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【36,847千円】
- 次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【11,419千円】
- 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【18,162千円】
- ホープツーリズム拡充等浜通り観光支援事業（観光交流課）【232,623千円】
- ホープツーリズム運営・基盤整備事業（観光交流課）【173,865千円】

推進施策8 文化振興による地域づくり

地域の祭りや伝統行事、歴史的な建造物など多様な資源の文化的価値をいかして、地域コミュニティの維持・強化や、産業、観光等の様々な分野との連携による魅力づくりなどの地域活性化に取り組みます。

(1) 文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり

令和4年度の主な取組

○ 地域創生総合支援事業（地域振興課）【816,275千円】

住民主体の個性と魅力にあふれる地域づくりを推進するため、民間団体や市町村等が実施する地域活性化の取組を支援するとともに、地方振興局等が地域課題に機動的かつ柔軟に対応するため、地域の実情に応じて事業を企画・実施します。

- サポート事業（採択件数）226件（①一般枠 135件、②市町村枠 67件、③過疎・中山間地域活性化枠（集落等活性化事業 13件、収益事業・スタートアップ支援事業 8件、集落ネットワーク圏形成事業 1件））
- 県戦略事業（実施件数）39件（①地域経営事業 16件、過疎中山間地域振興事業 14件、地域連携調整事業 9件）

◆ サポート事業

廃校を活用したウォールアートプロジェクト、史跡や空き店舗等を舞台とした国際的なアーティストによる芸術祭（福島ビエンナーレ）、文化資源をウェブで公開するデジタルミュージアムの構築など、文化振興を通じた地域づくりを支援している。

○ 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【199,355千円】

「自然のなかに暮らすいとなみ、100年先のみらいへ」を基本理念として、本県を代表する水力発電地域である只見川流域7町村が実施する地域振興を支援しています。

- 奥会津らしさの整理・継承事業、奥会津ブランディング推進事業、地域内外との連携・交流推進事業、グローバルな人財の育成事業、地域イノベーションの推進事業、地域づ

くりとしての広域観光推進事業、二次交通体系の拡充事業（ソフト事業）への補助：1件（只見川電源流域振興協議会）

- 歳時記の郷基盤整備事業（ハード事業）への補助：5件（三島町（2件）、金山町、昭和村、南会津町）”

○ 観光地域づくり総合推進事業（観光交流課）【118, 967千円】

地域の観光コンテンツの造成、磨き上げ、流通までの一連をサポートし、将来的な地域自走の一助とする。また、ふくしま応援ポケモンを活用した地域振興施策を展開し、地域と協働して誘客を図るほか、発酵文化をテーマとした発酵ツーリズム等の推進により多角的な誘客を図ります。

● ふくしま発酵ツーリズム推進事業

- 磨き上げコンテンツについて確定し、事業者と詳細調整中。
- 「美を醸すふくしまナビゲーター」研修会を令和5年1月より実施予定（全4回）
- 県HPトップページのリニューアル済み、各種媒体を利用した情報発信を実施中。

● 人気キャラクターを活用したふくしまスマイル事業

- ラッキーグリーティング開催 11回

県内の花の名所において、ラッキーと一緒に写真撮影ができるグリーティングを実施。

- ラッキーと桃（も）っとキャンペーン開催（7/23（土）～8/28（日））

県内果樹園や飲食店において、桃狩りや桃メニューを注文したお客様へオリジナルノベルティを配布したほか、ラッキーフォトコンテストを実施。

- ラッキーマルシェ with ポケモンローカル Acts 開催（12/17（土）～2/12（日））

道の駅なみえにおいて、全国の推しポケモンとのご当地コラボ商品を販売する他、グリーティングの開催やコラボドリンクの販売を実施中。”

○ 福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域政策課）【44, 364千円】

本県ゆかりの特撮等のコンテンツを地域の宝として見直す機運を醸成し、これらを有効に活用しながら交流人口の拡大や福島県全域の活力創出を図るとともに、市町村や関係団体と連携して、地域経済の活性化を目指します。

- ウルトラマンを活用した「ウルトラふくしま2022」スタンプラリーを開催し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図った。また、特撮文化推進事業実行委員会に参画し、特撮をテーマとしたワークショップを開催するなど特撮文化の継承・発展を図った。

○ 奥会津地域活性化推進事業（まちづくり推進課）【32, 000千円】

奥会津地域において、只見線やその沿線の豊かな自然景観、地域観光と土木構造物を連携したインフラツアールを定着させ、奥会津地域の活性化（交流人口の拡大）を図ります。

- インフラツアーの定着に向けた旅行会社向けファミツアーの開催や、歩く県道（道普請）の活用に向けた実証実験等を実施している。（12月末時点）

令和5年度の主な取組予定

- 地域創生総合支援事業（地域振興課）【837,751千円】
- 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【196,476千円】
- 観光地域づくり総合推進事業（観光交流課）【140,384千円】
- 福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域政策課）【53,095千円】
- 奥会津地域活性化推進事業（まちづくり推進課）【32,000千円】